

(別紙)

### 水稻の出穂状況（8月9日現在概況速報）について

- 8月9日現在、県全体で87%の水田で出穂したとみられる。  
地帯別の出穂割合は、北上川上流73%、北上川下流94%、東部67%、北部78%である。
- 県全体の出穂始期（10%出穂）は7月31日頃（平年差：-3日）、出穂盛期（50%出穂）は8月3日頃（平年差：-3日）であった。出穂終期（90%出穂）は、平年より1日早い8月9日頃と推定される。

表1 水稻の地帯別出穂状況（8月9日現在 各農業改良普及センター調べ）

地帯名	出穂時期（月／日）								
	本年（月／日）			平年			平年差（日）		
	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期	始期	盛期	終期
北上川上流	7/30	8/4	(8/8)	8/2	8/6	8/11	-3	-2	(-3)
北上川下流	7/31	8/3	(8/9)	8/2	8/6	8/10	-2	-3	(-1)
東部	8/2	8/7	(8/12)	8/3	8/7	8/11	-1	0	(+1)
北部	8/1	8/5	(8/11)	8/4	8/7	8/11	-3	-2	(±0)
県全体	7/31	8/3	(8/9)	8/3	8/6	8/10	-3	-3	(-1)

- 注) 1 平年値：平成20年～29年の10カ年平均値  
2 出穂時期：市町村単位での判定。始期：10%出穂、盛期：50%出穂、終期：90%出穂  
3 出穂割合が50%を超えていても、市町村ごとに到達していない場合は確定できないため、カッコつきの推定値として記載している。

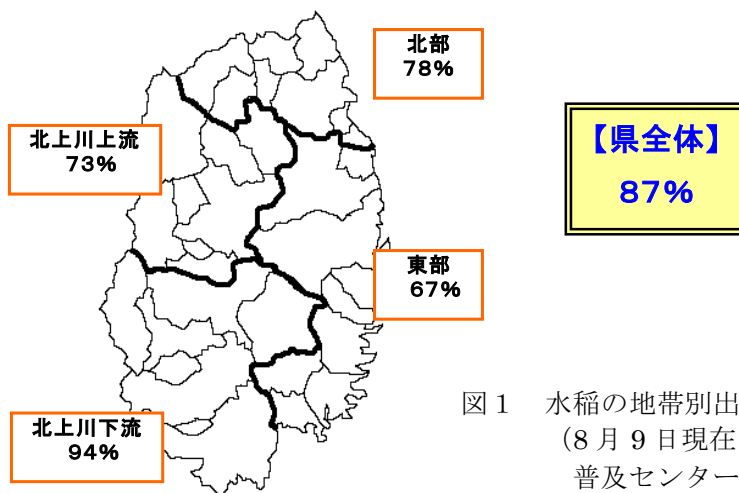


図1 水稻の地帯別出穂割合  
（8月9日現在 各農業改良普及センター調べ）

### 3 栽培管理のポイント

- 東北地方の1か月予報（仙台管区气象台，8月9日発表）によると、向こう1か月の平均気温は、高い確率が60%と予想されている。
- 開花終了後は、間断灌がいを基本とする。早期落水は、収量や品質低下の原因となるので避け、出穂後30～35日経過してから完全落水とする。
- 斑点米の原因となるカスミカメムシ類の発生量は「並」の予想である。水稻の生育に合わせ、穂揃1週間後の薬剤防除を徹底すること。
- 穂いもちの重要な伝染源となる上位葉（止葉、次葉、第3葉）への発生が見られた場合には、直ちに防除を実施し、穂揃期1週間後まで7～10日間隔で茎葉散布による防除を実施すること。
- 刈取時期に関する今後の情報に注意し、適期収穫できるよう、コンバインや乾燥調製施設の清掃・整備を行うこと。